

横浜市立大学学術情報センター

貴重書 月替わり展覧会リーフレット (148)

2024年1月の作品は
「横浜繁栄本町通時計台神奈川県全図」
— 明治初期の日本大通り—

展示テーマ

～日本大通りの歴史～

日本大通りは、横浜市中区に位置する横浜の官庁街となっている場所である。横浜公園から横浜港に向かって真っすぐに伸びており、そこには季節ごとに色を変える美しいイチョウの木が並んでいる。

日本大通り周辺には、「神奈川県庁本庁舎」や「横浜税関」、「横浜地方検察庁・横浜地方裁判所」、「中区役所」、「神奈川県警察」などの公共の建物が連立する行政の中心地であり、横浜を象徴するキングやクイーンの塔などの歴史的建造物が立ち並ぶ歴史深い通りでもある。日本大通りは、横浜が開港すると共に外国人居留地と定められた。しかし、慶応の大火（1867年）によってその大部分が焼失してしまい、それをきっかけに行われた大規模な区画整理の際、リチャード・ブラントン（1841～1901）によって設計された。その後、明治政府によって「日本大通り」という名称がつけられた。このような長い歴史を持つ「日本大通り」は横浜の発展の歴史を語る上で欠かせない場所と言えるだろう。本展示では、明治時代の日本大通り周辺を描いた「横浜繁栄本町通時計台神奈川県全図」からその歴史を辿っていこうと思う。



「横浜繁栄本町通時計台神奈川県全図」
(3枚続)

明治7（1874）年

作者：歌川国鶴（生存期未詳）

版元：丸屋鉄次郎板

縦 36.7cm × 横 22.9cm

「横浜繁栄本町通時計台神奈川県全図」には、明治初期の本町通りが描かれ、当時の神奈川県庁舎や町会所時計塔の建物を中心にその周辺を往來する多くの人々の様子が描かれている。色鮮やかな横浜絵である。横浜絵とは、開港当初の横浜を舞台に異国風俗を紹介することに重点を置いた浮世絵の様式である。右側の建物は、明治7（1874）年に建設された町会所であり、石造垂鉛屋根2階建て、一部4階建ての壮大な洋館である。老朽化に伴い明治38（1905）年に撤去された。その後、明治42（1909）年に横浜開港50周年を記念し再興が企てられ、大正6（1917）年にその跡地に現在の横浜開港記念館が建てられた。左側にある和風の建物は、初代神奈川県庁舎である。初代県庁舎は税関の前身である「運上所」の庁舎を引き継いだものであった。外壁は石積みで2階にベランダを持つ幕府が手掛けた初めての洋風建築である。

展示のみどころ
～日本大通りの変遷～



① 現在の本町通りとの比較

絵と現在の写真を比較してみると、当時の面影が感じられる。町会所時計塔は現在横浜市開港記念館として建物の一部が残っているが、外壁は石造から煉瓦造りになり、塔部分は4階から5階建てになった。

初代神奈川県庁舎に関しては、明治15（1882）年の火災で全焼してしまっただけで建物は残っておらず、現在はその跡地に横浜地方裁判所・横浜地方検察庁が立っている。

加賀町署本町交番の前から、絵の中心となっている2つの建物を絵と同様の角度から確認することができ、当時のこの地点の付近から絵が描かれているということが分かる。建物のバランスや位置からして、国鶴が当時の風景を写実的に描こうとした様子が伝わってくる。

② 富士山は実際に見えた？



絵の右上に注目していただくと、富士山が描かれていることが分かる。果たしてこの富士山は当時実際に目視できたものなのか、もしくは国鶴の想像によって描かれたものなのだろうか。当時は、現在のように視界を遮るような高い建物はなく、見通しが良かったと考えられる。また富士山がある方向は、絵が描かれたと考えられる視点から斜め右方向のため、正しい位置に描かれているということが分かる。判断材料が少ないため、この説について断言することはできないものの、可能性はあったといっていだろう。本展示では、絵と現在の本町通りを比較しその歴史を辿ってきた。

「横浜繁栄本町通時計台神奈川県全図」の中には他にも人々の様子や建物の細部、植物など見どころが多くあり奥深い作品である。歴史的背景を知り鑑賞することでより一層作品を楽しむことが出来るだろう。

参考文献

- ・神奈川県建築士会編（1962）『神奈川県建築史図説』神奈川県建築士会
- ・平野光雄（1971）『時計亦楽』青蛙房刊
- ・横浜市（1958）『横浜市史 資料編12』有隣堂
- ・Google, google map, <https://www.google.co.jp/maps>（最終閲覧日：令和4年5月16日）

あとがき ～貴重資料に触れて～

今回の授業で初めて貴重資料に触れるという体験をさせていただきました。資料の質感や色、大きさは肉眼でみるのと写真で見るとはイメージがかなり異なり驚きました。このような点は、実際の作品に触れることでしか体験できない醍醐味であり、貴重な経験になりました。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、
展示品を除き申請が必要です。また、利用は
学術研究目的に限らせていただきます。

令和6年1月4日発行
令和元年度 日本文化論A受講生 編集
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学 学術情報センター

第149回展示は令和6年2月上旬からを予定しています。